

アスベスト処理法を開発

化学反応で固化

神東塗料 飛散抑えて廃棄

本格事業化

は、化学反応で固化させるためにそのまま埋めるなどの処理もできる。

これまで有機系化合物やセメントによる固化も考えられてきたが、いずれも時間がたったり、壊れたりすると再びアスベストが飛び散り二次災害の心配があったが、新方法で

同社は、薬劑開発とともに白アリ防除作業のノウハウを応用して、アスベスト除去方法を考案、当面薬劑だけの販売を行わず、東京、大阪に除去作業の施工チームを設置して事業化していく方針。市場は学校関係だけで数百億円にのぼる、と同社はみている。

学校などの建物に使われているアスベスト(石綿)が飛がん物質として問題になっているが、神東塗料は二日、化学反応でアスベストを固化して無害にする処理方法を開発したと発表した。新しい方法を使って十二月に神奈川県・寒川町の町立旭小学校で初めての除去作業を行う予定で、その後同社は、本格的に事業化していく方針。

アスベスト問題は、天井や壁に塗られたアスベストが、古くなって飛び散り、飛がんの危険など人体への悪影響が指摘されている。文部省の調査では校舎や体育館にアスベストを使った学校が千校を超しており、最近除去作業が始まっている。同社が開発したのは、商品

名「アクトリカ」という無機系セラミック重合体と触媒の二種類の薬劑で構成。これを順番にアスベストに吹きつけて浸みこませるとアスベスト成分のうちの酸化マグネシウムなどと化学反応し、三分程度で固まり、繊維が空気中に飛び散らなくなるという。

現在の除去作業は、大半が建物を密封状態にして、アスベストをそのままかき落とし、新方法では、固化させたあと、はがせばよく、アスベストの拡散を防げるほか、はがさずに上から塗装することも可能だという。また、

